

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立八木小学校	校長氏名	宮田 稔	生徒指導主事氏名	原田 宏子
-----	-----------	------	------	----------	-------

取 組 事 例 名 『いじめ防止取組強化月間（9 月）—児童会が中心となった取組』

取 組 の ね ら い『キーワード 八木小学校をふわふわ言葉でいっぱいになろう』

児童会の取組

この学校をやさしい言葉でいっぱいにして、いじめを未然に防ぐ。

取 組 の 具 体 的 内 容『キーワード 取組の見通しを持つ・優しさを具体的な言葉で表す』

児童会が主体となり三つの取組を行った。

①全校児童でやさしい言葉を見つける。（9 月～10 月初旬）

- ・各クラスで「ちくちく言葉」について考える。
- ・各クラスで「ふわふわ言葉」をたくさんを見つける。
- ・クラスを超えて「ふわふわ言葉」を見つける。

②やさしい言葉いっぱいの八木小学校集会を行う。（10 月中旬）

- ・「ちくちく言葉」と「ふわふわ言葉」について考えたことや、学校での様子を作文にして発表する。（各学年で1 名）
- ・作文発表後、意見交換を行う。



③元気をもらえるようなキャラクターを募集する。（11 月）

- ・みんなを和やかにしたり，勇気づけたりする言葉を参考に名前をつけたキャラクターを全校児童に考えてもらい募集する。



- ・応募作品を掲示し，全体で発表する。

取組の課題・創意工夫『キーワード 全児童・全職員の意識統一』

取組に対する温度差が、クラスや学年により生じたように感じる。取組を提案する時、代表委員会を開くが代表委員が３年生以上のため、低学年に提案理由や活動内容が伝わりにくいことが考えられる。低学年にもしっかり提案理由や活動が伝わるよう代表委員会で工夫をする必要がある。また、全教職員が取組をしっかり把握するため、来年度は代表委員会に低学年の先生が参加するように検討していきたい。

取組の成果（効果）『キーワード 取組の共有』

いじめ未然防止の取組として、児童が主体となる取組を行っている。昨年度は、児童会が中心になって「いじめを防ぐ三つの勇気」を考え、全児童がその勇気について意識できるような取組を行った。今年度は、本校の課題でもあった「人を傷つける言葉の多さ」について児童会で考え、優しい言葉遣いがどのようにしたらできるかを児童会執行部を中心に取組んだ。各クラスの取り組みを全体で発表後、意見交換を行った。学年なりに自分の思ったことを全校児童の中で伝え合うことができ、それを聞き合うことは、とても有意義だった。また、児童の発案である「優しさやふわふわ言葉キャラクター」募集は、全児童が一生懸命取り組む要素の一つになった。

今 後 の 展 開『キーワード 継続』

9月のいじめ防止月間から取組をスタートし、11月まで継続した。年度末まで活動を継続させるため、児童会行事の中に「ふわふわ言葉でいっぱい」の要素を取り込んでいきたい。1月には児童会行事「八木っ子まつり」があるが、その中でも学年を超え「ふわふわ言葉」を伝え合えるような取組を継続させたい。

他校へのアドバイス『キーワード 児童主体の取り組み』

児童が主体になった取り組みは、時間がかかる。しかしながら、児童の思いもよらない発案などにより活動の中で児童の心に残るものが増えてくるように思う。そして、児童自身が自分の言葉で思いを伝え合うことが、お互いの心に響くのだと感じる。一生懸命取り組む上級生の姿を見て、下級生が育っていくような取組を大切にしたい。